

コミュニティ・スクールの取組と成果に関する考察

管理職、教職員、学校運営協議会委員、保護者の視点から

長友 義彦・静屋 智・池田 廣司・美作 健悟・宮木 秀雄

Consideration of the Community School Efforts and Achievements
Viewpoints of School Leaders, Teachers, School Management Committee members, Parents

NAGATOMO Yoshihiko, SHIZUYA Satoru, IKEDA Hiroshi, MISAKU Kengo, MIYAKI Hideo

(Received December 21, 2018)

キーワード：コミュニティ・スクール、学校運営協議会、学校運営

はじめに

山口県では、平成28年4月1日にすべての公立小・中学校にコミュニティ・スクールが導入され、各学校の特色に応じて様々な取組がなされている。山口県教育委員会は、そうした全県的な取組をまとめ、「平成29年度やまぐち型地域連携教育実践事例集」¹⁾ (平成30年3月)には、各学校の取組の指標として「『やまぐち型地域連携教育』におけるコミュニティ・スクールのめざす姿～学校運営・学校支援・地域貢献の充実に向けて～」を示している。

本稿では、各小・中学校の取組の状況と取組によって管理職、教職員、学校運営協議会、保護者はどのような成果に結びついていると意識しているかについて考察していくものとする。考察にあたっては、平成30年9月～10月に実施した「山口大学との連携による地域連携教育の成果検証」事業による一次調査を活用する。

1. 「山口大学との連携による地域連携教育の成果検証」事業による一次調査について

地域連携教育（以下、コミュニティ・スクール）の成果を検証するために、山口県内の13市の小学校1校、中学校1校の管理職（校長、教頭、事務長）、教職員（教諭、助教諭、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭、学校栄養職員、事務職員）、学校運営協議会委員（以下CS委員）、保護者（アンケートを実施した児童生徒の保護者）、児童（小学6年生）生徒（中学3年生）を対象に質問紙調査を実施した。調査に使用する質問紙は、前出の山口県教育委員会の示す14の取組指標と平成28年度に文部科学省委託事業「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究 コミュニティ・スクールにおける教員、児童生徒、学校、地域の変容についての成果に関する調査研究」を参考に作成した^{2) 3)}。

質問紙調査は、平成30年9～10月にかけて実施し概要を表1に示す。今回の分析では、取組と成果について検証するため、管理職、教職員、CS委員、保護者の回答を対象とする。

表1 一次調査概要

	管理職	教職員	CS委員	保護者	児童	生徒
配布数	92	1020	390	3762	1458	2304
提出数	95	828	247	2930	1367	2124
有効回答数	72	700	180	2657	1231	2040
回答率	78.3%	68.6%	46.2%	70.6%	84.4%	88.5%

2. コミュニティ・スクールの取組の状況

コミュニティ・スクールの取組状況について、各学校に質問紙調査（管理職27項目、教職員23項目、CS委員25項目、保護者14項目）を実施した。回答は4件法として「あてはまる」4点、「どちらかというにあてはまる」3点、「どちらかというにあてはまらない」2点、「あてはまらない」1点として得点化し、14の取組指標ごとの平均値を求めた。その結果を図1に示す。

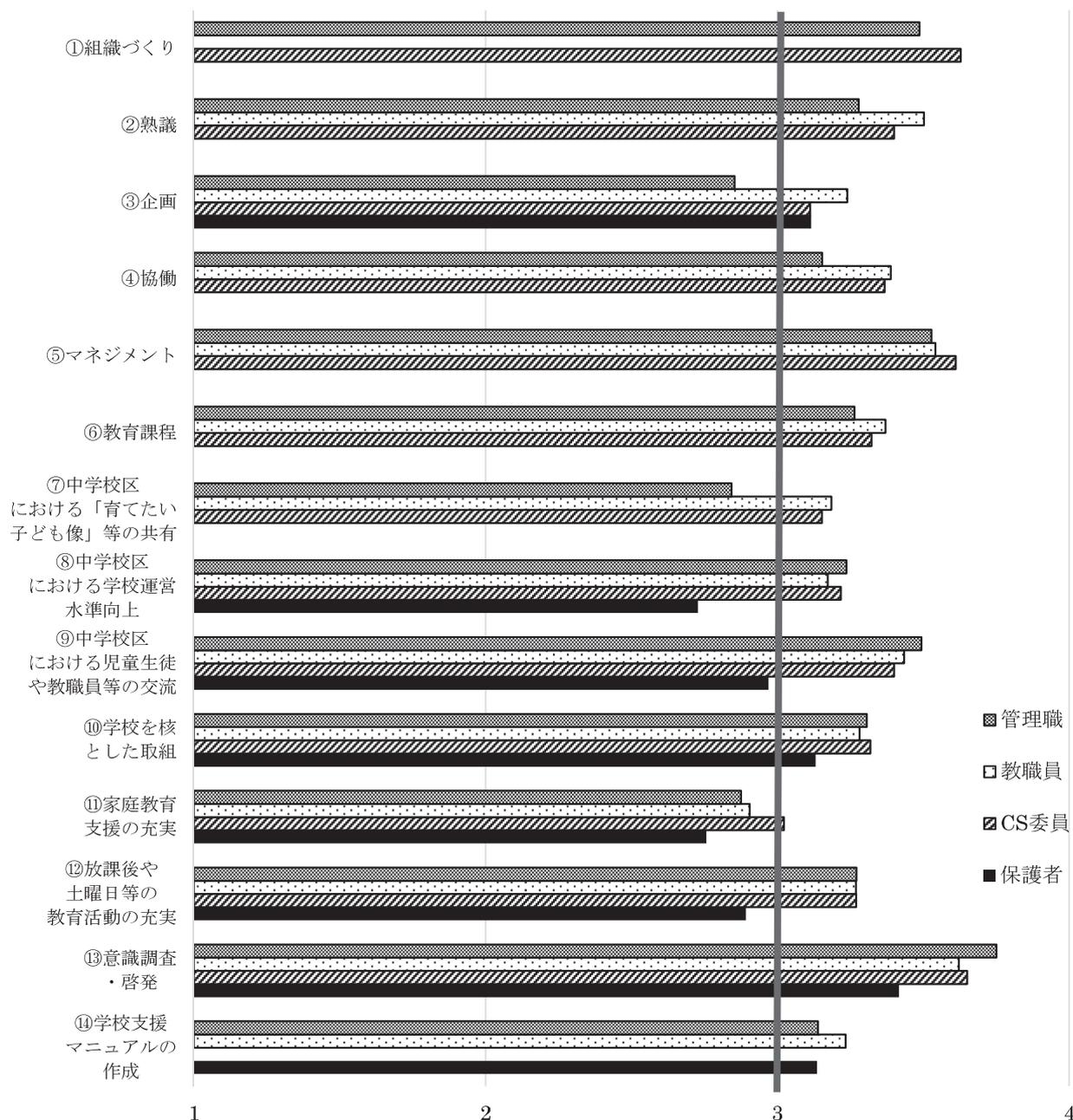


図1 コミュニティ・スクールの取組

上記グラフのうち、教職員の「①組織づくり」、CS委員の「⑭学校支援マニュアルの作成」、保護者の「①組織づくり」「②熟議」「④協働」「⑤マネジメント」「⑥教育課程」「⑦中学校区における『育てたい子ども像』等の共有」に関しては、回答困難と予想される等の理由により質問項目には入れていない。

各取組指標の平均値は肯定的な回答である3点を超えていることから、各学校の取組は概ね進んでいるものと考えられる。全体的にCS委員の平均値は、他と比べると高い傾向があり、保護者は低い傾向にある。また、「⑪家庭教育支援の充実」については、管理職、教職員、保護者で平均値が3点を下回っており、今後の取組に期待したい。

3. コミュニティ・スクールの取組と成果の分析

コミュニティ・スクールの取組と成果について、管理職、教職員、CS委員、保護者の回答を基に、それぞれ分析して考察する。コミュニティ・スクールの成果に関わる質問紙は4件法によって作成しているため、肯定的な回答から4点、3点、2点、1点として得点化（肯定的な回答が高得点となるように処理）し、因子分析を行うことで成果と考えられる因子を取り出す。そのようにして得られた因子を従属変数、取組指標を独立変数として重回帰分析を行い、取組指標と成果の関係を分析する。

3-1 管理職が意識する成果と関係する取組指標

まず、問3（25）は多肢選択式であるため除外し、天井効果（平均値+標準偏差 ≥ 4.0 ）とフロア効果（平均値-標準偏差 ≤ 1.0 ）を確認するために各質問項目の平均値と標準偏差を算出した（表2）。その結果、問3（1）、問3（13）、問3（21）、問3（22）、問3（23）、問3（24）、問3（32）において天井効果が見られたため、この7項目を以下の分析から除外した。

表2 管理職対象の質問項目の平均値（M）及び標準偏差（SD）

質問項目	M	SD	M+SD	M-SD
問3（1）学校は、児童生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしていますか。	3.8	0.5	4.2	3.3
問3（2）児童生徒は、頑張り抜く力がありますか。	3.1	0.5	3.6	2.6
問3（3）児童生徒は、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか。	2.9	0.5	3.4	2.4
問3（4）児童生徒の自己肯定感が高いですか。	3.1	0.6	3.7	2.5
問3（5）児童生徒の知識・技能は、定着していますか。	3.0	0.6	3.7	2.4
問3（6）児童生徒の知識・技能を活用する力は、身に付いていますか。	2.8	0.6	3.4	2.2
問3（7）児童生徒の学習意欲は高いですか。	3.2	0.6	3.7	2.6
問3（8）児童生徒は、授業のとき自分の考えや意見を述べていますか。	3.1	0.4	3.5	2.7
問3（9）児童生徒は、授業のとき友達の意見を大切にしていますか。	3.2	0.5	3.7	2.8
問3（10）児童生徒は、思いやりの心が育っていますか。	3.2	0.5	3.7	2.7
問3（11）児童生徒は、いじめを許さない心がありますか。	3.3	0.5	3.7	2.8
問3（12）児童生徒は、人の役に立ちたいと考えていますか。	3.3	0.6	3.9	2.7
問3（13）学校は、学習規律の維持を徹底していますか。	3.5	0.6	4.1	2.9
問3（14）児童生徒は礼儀正しいですか。	3.3	0.5	3.8	2.7
問3（15）児童生徒は、きまりやマナーを守っていますか。	3.4	0.5	3.9	2.8
問3（16）児童生徒は、地域の様子や出来事に興味がありますか。	3.0	0.6	3.6	2.4
問3（17）児童生徒は、今住んでいる地域の行事に参加していますか。	3.2	0.5	3.7	2.6
問3（18）児童生徒は、地域のボランティア活動に参加していますか。	3.1	0.6	3.7	2.4
問3（19）児童生徒は、学校や地域でふれあう大人の学びや考え方に刺激を受けていますか。	3.0	0.6	3.6	2.4
問3（20）児童生徒は、将来、今住んでいる地域に住みたいと思っていますか。	2.9	0.4	3.3	2.5
問3（21）保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか。	3.6	0.6	4.2	3.0
問3（22）教職員同士での連携・協働の意識は高いですか。	3.4	0.7	4.1	2.8
問3（23）地域や関係機関等と連携・協働することが、教職員の資質・能力の向上につながっていますか。	3.5	0.6	4.1	2.9
問3（24）コミュニティ・スクールの取組は、地域の活性化につながると感じていますか。	3.6	0.5	4.1	3.2
問3（26）教職員は、保護者対応に負担を感じていますか。	2.2	0.7	2.8	1.5
問3（27）教職員は、児童生徒の問題行動への対応に負担を感じていますか。	2.3	0.8	3.1	1.5
問3（28）教職員は、コミュニティ・スクールの取組による多忙感がありますか。	2.4	0.7	3.1	1.7
問3（29）コミュニティ・スクールの取組によって、教職員の児童生徒への指導の充実が図られていますか。	3.1	0.6	3.7	2.6
問3（30）教職員は、地域に貢献しようとする意識が高いですか。	2.9	0.8	3.7	2.2
問3（31）教職員は、「地域と共に子どもを育てていく」という意識は高いですか。	3.2	0.6	3.9	2.6
問3（32）あなたは、勤務する学校がある地域の魅力や課題を理解していますか。	3.4	0.6	4.0	2.8
問3（33）中学校区は、子育てがしやすい地域だと思いますか。	3.3	0.6	3.8	2.7
問3（34）保護者や地域の方は、学校の課題や問題点を理解していると思いますか。	2.9	0.5	3.4	2.3
問3（35）学校への批判や苦情が、減少傾向にありますか。	3.0	0.7	3.7	2.3
問3（36）保護者は、コミュニティ・スクールについて理解していますか。	2.8	0.6	3.3	2.2
問3（37）保護者や地域の方は、学校の取組が地域の活性化につながっていると思っていますか。	3.0	0.5	3.5	2.5
問3（38）学校の取組に対して、保護者や地域の方の協力が得られていますか。	3.4	0.5	3.9	2.9
問3（39）保護者や地域の方は、学校のために役に立ちたいと思っていますか。	3.3	0.5	3.8	2.8

次に、残りの31項目に対して、因子分析（最尤法、Promax回転）を行った。因子数は、固有値の落差、因子の解釈可能性を考慮して3因子が妥当であると判断した。その結果、問3（2）、問3（20）、問3（34）、問3（35）、問3（37）の5項目が、因子負荷量の絶対値が.4未満の項目であるため削除した。同様に因子分析を行った結果、最終的に26項目3因子構造を得た。各因子の質問項目を概観し、第I因子を「子どもの学びと心の成長」、第II因子を「学校・家庭・地域の協働」、第III因子を「教職員の負担感の軽減」と名付けた。なお、下位尺度の信頼性を検討するために、因子ごとにCronbachの α 係数を算出したところ、 $\alpha=.83\sim.90$ であることから下位尺度の内的整合性は高いと判断した。因子分析の結果及び各因子の記述統計量と α 係数を表3に示す。

表3 因子分析結果（平均値（M）、標準偏差（SD）、 α 係数）（管理職）

質問項目	I	II	III
因子I（子どもの学びと心の成長）（M=3.15 SD=0.35 $\alpha=.90$）			
問3（5）児童生徒の知識・技能は、定着していますか。	.836	.028	-.094
問3（7）児童生徒の学習意欲は高いですか。	.774	.047	-.051
問3（6）児童生徒の知識・技能を活用する力は、身に付いていますか。	.756	.046	.074
問3（12）児童生徒は、人の役に立ちたいと考えていますか。	.675	.078	-.073
問3（11）児童生徒は、いじめを許さない心がありますか。	.673	-.188	-.0160
問3（9）児童生徒は、授業のとき友達の意見を大切にしていますか。	.614	.12	.139
問3（4）児童生徒の自己肯定感が高いですか。	.567	.101	.191
問3（8）児童生徒は、授業のとき自分の考えや意見を述べていますか。	.564	.09	-.419
問3（10）児童生徒は、思いやりの心が育っていますか。	.537	-.087	.061
問3（39）保護者や地域の人は、学校のために役に立ちたいと思っていますか。	.521	.227	-.077
問3（33）中学校区は、子育てがしやすい地域だと思いますか。	.518	-.107	-.052
問3（14）児童生徒は礼儀正しいですか。	.496	.119	.042
問3（15）児童生徒は、きまりやマナーを守っていますか。	.453	-.025	.181
問3（28）教職員は、コミュニティ・スクールの取組による多忙感がありますか。	.429	-.191	.187
問3（38）学校の取組に対して、保護者や地域の人の協力が得られていますか。	.419	.367	-.079
因子II（学校・家庭・地域の協働）（M=3.02 SD=0.42 $\alpha=.88$）			
問3（30）教職員は、地域に貢献しようとする意識が高いですか。	-.352	1.048	-.106
問3（31）教職員は、「地域と共に子どもを育てていく」という意識は高いですか。	.03	.779	.098
問3（29）コミュニティ・スクールの取組によって、教職員の児童生徒への指導の充実が図られていますか。	-.104	.742	.013
問3（16）児童生徒は、地域の様子や出来事に関心がありますか。	.076	.609	-.095
問3（17）児童生徒は、今住んでいる地域の行事に参加していますか。	-.068	.607	.203
問3（36）保護者は、コミュニティ・スクールについて理解していますか。	.157	.573	.149
問3（18）児童生徒は、地域のボランティア活動に参加していますか。	-.007	.546	.066
問3（19）児童生徒は、学校や地域でふれあう大人の学びや考え方に刺激を受けていますか。	.18	.491	-.005
問3（3）児童生徒は、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか。	.261	.445	-.075
因子III（教職員の負担感の軽減）（M=2.22 SD=0.68 $\alpha=.83$）			
問3（27）教職員は、児童生徒の問題行動への対応に負担を感じていますか。	.262	-.01	.901
問3（26）教職員は、保護者対応に負担を感じていますか。	-.108	.130	.787
因子相関			
	I		
	II	0.595	
	III	0.109	0.013

続いて、コミュニティ・スクールの取組と成果の関係を分析するために、各因子を従属変数、14の取組指標を独立変数として重回帰分析（ステップワイズ法）を行った。

その結果、第I因子「子どもの学びと心の成長」には、「⑦中学校区における『育てたい子ども像』等の共有」「⑧中学校区における学校運営水準の向上」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「①組織づくり」の取組指標が有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図2）。

第II因子「学校・家庭・地域の協働」では、「⑦中学校区における「育てたい子ども像」等の共有」「⑫放課後や土曜日等の教育活動の充実」「③企画」「⑤マネジメント」の取組指標が有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図3）。

第III因子「教職員の負担感の軽減」では、「⑨中学校区における児童生徒や教職員の交流」の取組指標が

有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図4）。

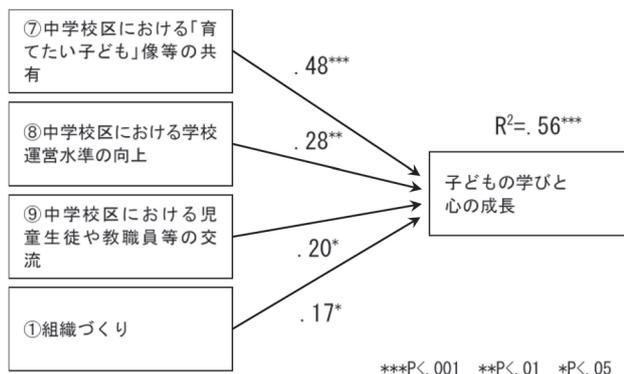


図2 管理職因子Ⅰにおける成果と取組指標

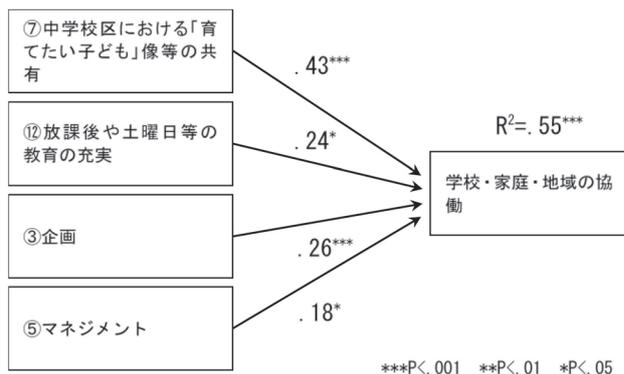


図3 管理職因子Ⅱにおける成果と取組指標

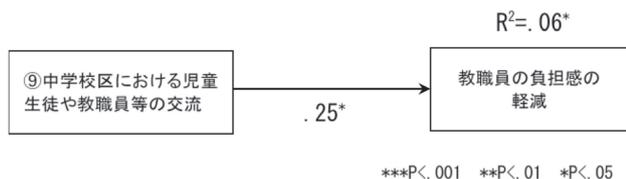


図4 管理職因子Ⅲにおける成果と取組指標

以上のことから、管理職はコミュニティ・スクールの取組により、「子どもの学びと心の成長」「学校・家庭・地域の協働」「教職員の負担感の軽減」に成果があると考えている。そしてこれらの成果は、「①組織づくり」「③企画」「⑤マネジメント」「⑦中学校区における『育てたい子ども像』等の共有」「⑧中学校区における学校運営水準の向上」「⑨中学校区における児童生徒や教職員の交流」「⑫放課後や土曜日等の教育活動の充実」によって支えられていると考えていることが分かる。特に、「⑦中学校区における『育てたい子ども像』等の共有」「⑧中学校区における学校運営水準の向上」「⑨中学校区における児童生徒や教職員の交流」等の小学校と中学校との連携を中心とした取組が重要と意識していると推察される。

3-2 教職員が意識する成果と関係する取組指標

まず、問3（25）は多肢選択式であるため除外した。また、問3（29）は問3（16）と重複した質問であったため除外した。天井効果（平均値+標準偏差 ≥ 4.0 ）とフロア効果（平均値-標準偏差 ≤ 1.0 ）を確認するために各質問項目の平均値と標準偏差を算出した（表4）。その結果、問3（24）において天井効果が見られたため、この1項目を以下の分析から除外した。

次に、残りの36項目に対して、因子分析（最尤法、Promax回転）を行った。因子数は、固有値の落差、因子の解釈可能性を考慮して3因子が妥当であると判断した。その結果、問3（1）、問3（13）、問3（33）の3項目が、因子負荷量の絶対値が.4未満の項目であるため削除した。同様にして因子分析を行った結果、最終的に33項目3因子構造を得た。各因子の質問項目を概観し、第Ⅰ因子を「学校・家庭・地域の協働」、第Ⅱ因子を「子どもの学びと心の成長」、第Ⅲ因子を「教職員の負担感の軽減」と名付けた。なお、下位尺度の信頼性を検討するために、因子ごとにCronbachの α 係数を算出したところ、 $\alpha = .76 \sim .91$ であることから下位尺度の内的整合性は高いと判断した。因子分析の結果及び各因子の記述統計量と α 係数を表5に示す。

続いて、コミュニティ・スクールの取組と成果の関係进行分析するために、各因子を従属変数、14の取組指標を独立変数として重回帰分析（ステップワイズ法）を行った。

その結果、第Ⅰ因子「学校・家庭・地域の協働」には、「⑤マネジメント」「⑩学校を核にした取組」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「⑪家庭教育支援の充実」「③企画」の取組指標が有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図5）。

第Ⅱ因子「子どもの学びと心の成長」では、「⑩学校を核とした取組」「⑤マネジメント」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」の取組指標が有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図6）。

第Ⅲ因子「教職員の負担感の軽減」については、有意な影響を及ぼす取組指標を取り出すことができなかった。

以上のことから、教職員はコミュニティ・スクールの取組により、「学校・家庭・地域の協働」「子どもの学びと心の成長」に成果があると考えている。そしてこれらの成果は、「③企画」「⑤マネジメント」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「⑩学校を核にした取組」「⑪家庭教育支援の充実」によって支えられていると考えていることが分かる。特に「⑤マネジメント」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「⑩学校を核にした取組」は共通の取組であることから、中学校区において学校を中心とした取組が必要であり、それらがマネジメントされていることが重要であると感じていると推察される。

表 4 教職員対象の質問項目の平均値 (M) 及び標準偏差 (SD)

質問項目	M	SD	M+SD	M-SD
問 3 (1) あなたは、児童生徒と将来就きたい仕事や夢について話していますか。	3.2	0.8	4.0	2.4
問 3 (2) 児童生徒は、頑張り抜く力がありますか。	3.0	0.6	3.6	2.3
問 3 (3) 児童生徒は、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか。	2.8	0.6	3.4	2.2
問 3 (4) 児童生徒の自己肯定感が高いですか。	2.9	0.6	3.4	2.3
問 3 (5) 児童生徒の知識・技能は、定着していますか。	2.9	0.5	3.4	2.4
問 3 (6) 児童生徒の知識・技能を活用する力は、身に付いていますか。	2.7	0.6	3.3	2.1
問 3 (7) 児童生徒の学習意欲は高いですか。	3.0	0.6	3.6	2.4
問 3 (8) 児童生徒は、授業のとき自分の考えや意見を述べていますか。	3.0	0.6	3.6	2.5
問 3 (9) 児童生徒は、授業のとき友達のことを大切にしていますか。	3.1	0.5	3.6	2.6
問 3 (10) 児童生徒は、思いやりの心が育っていますか。	3.1	0.5	3.6	2.6
問 3 (11) 児童生徒は、いじめを許さない心がありますか。	3.2	0.5	3.7	2.6
問 3 (12) 児童生徒は、人の役に立ちたいと考えていると思いますか。	3.2	0.6	3.7	2.6
問 3 (13) あなたは、学習規律の維持を徹底していますか。	3.3	0.6	3.9	2.7
問 3 (14) 児童生徒は礼儀正しいですか。	3.0	0.6	3.6	2.4
問 3 (15) 児童生徒は、きまりやマナーを守っていますか。	3.1	0.5	3.6	2.5
問 3 (16) 児童生徒は、地域の様子や出来事に関心がありますか。	2.9	0.7	3.6	2.3
問 3 (17) 児童生徒は、今住んでいる地域の行事に参加していますか。	3.1	0.6	3.7	2.5
問 3 (18) 児童生徒は、地域のボランティア活動に参加していますか。	2.9	0.7	3.6	2.1
問 3 (19) 児童生徒は、学校や地域でふれあう大人の学びや考え方に刺激を受けていますか。	2.8	0.6	3.5	2.2
問 3 (20) 児童生徒は、将来、今住んでいる地域に住みたいと思っていますか。	2.8	0.5	3.4	2.3
問 3 (21) 保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか。	3.2	0.6	3.7	2.6
問 3 (22) 教職員同士での連携・協働の意識は高いですか。	3.4	0.6	4.0	2.7
問 3 (23) 地域や関係機関等と連携・協働することが、教職員の資質・能力の向上につながっていますか。	3.2	0.6	3.8	2.6
問 3 (24) コミュニティ・スクールの取組は、地域の活性化につながると思いますか。	3.4	0.7	4.0	2.7
問 3 (26) あなたは、保護者対応に負担を感じていますか。	2.5	0.9	3.3	1.6
問 3 (27) あなたは、児童生徒の問題行動への対応に負担を感じていますか。	2.5	0.8	3.4	1.7
問 3 (28) あなたは、コミュニティ・スクールの取組による多忙感がありますか。	2.5	0.8	3.4	1.7
問 3 (30) あなたは、地域に貢献しようとする意識が高いですか。	3.0	0.6	3.5	2.4
問 3 (31) あなたは、「地域と共に子どもを育てていく」という意識が高いですか。	3.1	0.6	3.7	2.5
問 3 (32) あなたは、勤務する学校がある地域の魅力や課題を理解していますか。	3.0	0.6	3.6	2.4
問 3 (33) 中学校区は、子育てがしやすい地域だと思いますか。	3.0	0.6	3.7	2.4
問 3 (34) 保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解していると思いますか。	2.7	0.6	3.3	2.0
問 3 (35) 学校への批判や苦情が、減少傾向にありますか。	2.6	0.7	3.3	1.8
問 3 (36) 保護者は、コミュニティ・スクールについて理解していますか。	2.5	0.6	3.2	1.9
問 3 (37) 保護者や地域の人は、学校の取組が地域の活性化につながっていると思っていますか。	2.9	0.6	3.4	2.3
問 3 (38) 学校の取組に対して、保護者や地域の人の協力が得られていますか。	3.2	0.5	3.8	2.7
問 3 (39) 保護者や地域の人は、学校のために役に立ちたいと思っていますか。	3.1	0.5	3.7	2.6

表5 因子分析結果（平均値（M），標準偏差（SD），α係数）（教職員）

質問項目	I	II	III
因子 I（学校・家庭・地域の協働）（M=2.95, SD=0.39, α=.91）			
問3（37）保護者や地域の人は、学校の取組が地域の活性化につながっていると思っていますか。	0.733	-0.097	-0.031
問3（36）保護者は、コミュニティ・スクールについて理解していますか。	0.678	-0.09	0.015
問3（18）児童生徒は、地域のボランティア活動に参加していますか。	0.628	-0.039	-0.068
問3（17）児童生徒は、今住んでいる地域の行事に参加していますか。	0.625	0.045	-0.089
問3（32）あなたは、勤務する学校がある地域の魅力や課題を理解していますか。	0.617	-0.048	-0.002
問3（23）地域や関係機関等と連携・協働することが、教職員の資質・能力の向上につながっていますか。	0.593	0.073	0.053
問3（39）保護者や地域の人は、学校のために役に立ちたいと思っていますか。	0.593	0.023	0.043
問3（32）あなたは、勤務する学校がある地域の魅力や課題を理解していますか。	0.579	0.017	0.004
問3（21）保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか。	0.555	0.096	0.005
問3（16）児童生徒は、地域の様子や出来事に興味がありますか。	0.548	0.171	-0.078
問3（19）児童生徒は、学校や地域でふれあう大人の学びや考え方に刺激を受けていますか。	0.541	0.198	-0.071
問3（31）あなたは、「地域と共に子どもを育てていく」という意識が高いですか。	0.533	0.029	0.034
問3（38）学校の取組に対して、保護者や地域の人の協力が得られていますか。	0.525	0.085	0.055
問3（35）学校への批判や苦情が、減少傾向にありますか。	0.524	-0.051	0.183
問3（30）あなたは、地域に貢献しようとする意識が高いですか。	0.518	0.02	0.056
問3（20）児童生徒は、将来、今住んでいる地域に住みたいと思っていますか。	0.481	0.119	0.025
問3（22）教職員同士での連携・協働の意識は高いですか。	0.427	0.172	-0.017
因子 II（子どもの学びと心の成長）（M=2.98, SD=0.38, α=.91）			
問3（7）児童生徒の学習意欲は高いですか。	-0.064	0.769	0.021
問3（8）児童生徒は、授業のとき自分の考えや意見を述べていますか。	-0.089	0.759	0.015
問3（5）児童生徒の知識・技能は、定着していますか。	-0.07	0.7	0.047
問3（9）児童生徒は、授業のとき友達の見解を大切にしていますか。	0.007	0.685	-0.009
問3（6）児童生徒の知識・技能を活用する力は、身に付いていますか。	-0.021	0.679	-0.007
問3（10）児童生徒は、思いやりの心が育っていますか。	0.052	0.67	0.036
問3（3）児童生徒は、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか。	0.08	0.65	-0.005
問3（2）児童生徒は、頑張り抜く力がありますか。	0.015	0.645	0.039
問3（4）児童生徒の自己肯定感が高いですか。	-0.035	0.633	-0.033
問3（14）児童生徒は礼儀正しいですか。	0.154	0.554	-0.043
問3（11）児童生徒は、いじめを許さない心がありますか。	0.143	0.523	0.004
問3（15）児童生徒は、きまりやマナーを守っていますか。	0.205	0.49	-0.06
問3（12）児童生徒は、人の役に立ちたいと考えていると思いますか。	0.177	0.49	-0.029
因子 III（教職員の負担感の軽減）（M=2.50, SD=.70, α=.76）			
問3（26）あなたは、保護者対応に負担を感じていますか。	0.02	0.056	0.845
問3（27）あなたは、児童生徒の問題行動への対応に負担を感じていますか。	-0.001	-0.007	0.837
問3（28）あなたは、コミュニティ・スクールの取組による多忙感がありますか。	0.034	-0.037	0.48
因子間相関			
	I		
	II	0.725	
	III	0.121	0.126

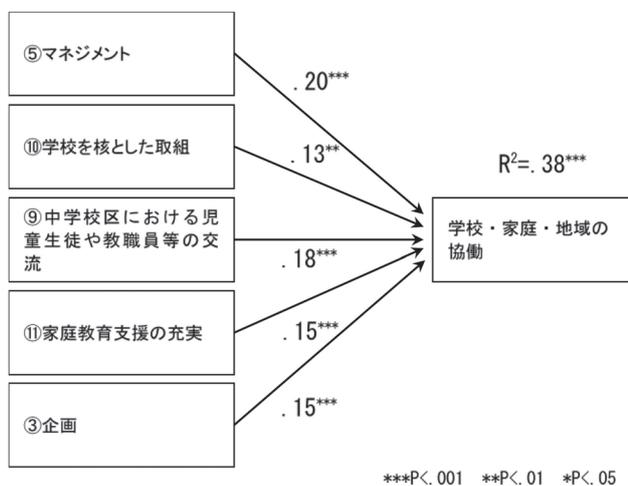


図5 教職員因子 I における成果と取組指標

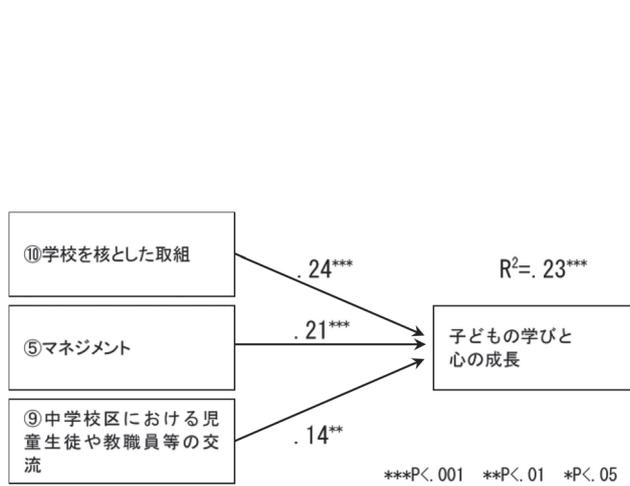


図6 教職員因子 II における成果と取組指標

3-3 学校運営協議会委員（CS委員）が意識する成果と関係する取組指標

まず、問3（23）は多肢選択式であるため除外した。天井効果（平均値+標準偏差 ≥ 4.0 ）とフロア効果（平均値-標準偏差 ≤ 1.0 ）を確認するために各質問項目の平均値と標準偏差を算出した（表6）。その結果、問3（12）、問3（13）、問3（14）、問3（16）、問3（20）、問3（21）、問3（22）、問3（28）、問3（32）、問3（35）、問3（36）、問3（37）、問3（38）において天井効果が見られたため、この13項目を以下の分析から除外した。

表6 CS委員対象の質問項目の平均値（M）及び標準偏差（SD）

質問項目	M	SD	M+SD	M-SD
問3（1）学校の子どもは、将来の夢や目標をもっていますか。	3.3	0.6	3.9	2.7
問3（2）学校の子どもは、頑張り抜く力がありますか。	3.3	0.6	3.9	2.7
問3（3）学校の子どもは、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか。	3.1	0.6	3.7	2.5
問3（4）学校の子どもは、自分の良いところを知っていますか。	3.2	0.6	3.7	2.6
問3（5）学校の子どもは、学校で学んだことを生活の中で生かしていますか。	3.1	0.6	3.7	2.6
問3（6）学校の子どもは、意欲的に学習していますか。	3.3	0.6	3.9	2.8
問3（7）学校の子どもは、授業のとき自分の考えや意見を述べていますか。	3.3	0.6	3.9	2.8
問3（8）学校の子どもは、授業のとき友達の見解を大切にしていますか。	3.4	0.5	3.9	2.8
問3（9）学校の子どもは、思いやりの心が育っていますか。	3.4	0.6	4.0	2.9
問3（10）学校の子どもは、いじめを許さない心がありますか。	3.3	0.6	4.0	2.7
問3（11）学校の子どもは、人の役に立ちたいと考えていると思いますか。	3.4	0.6	4.0	2.8
問3（12）学校の子どもは、学習のきまり（チャイム着席、話を黙って聞く等）を守っていますか。	3.6	0.5	4.1	3.1
問3（13）学校の子どもは、礼儀正しいですか。（言葉遣いに気をつける、お礼を言うなど）	3.5	0.5	4.0	2.9
問3（14）学校の子どもは、きまりやマナーを守っていますか。	3.5	0.6	4.0	2.9
問3（15）学校の子どもは、地域の様子や出来事に関心がありますか。	3.1	0.7	3.7	2.4
問3（16）学校の子どもは、今住んでいる地域の行事に参加していますか。	3.3	0.7	4.0	2.7
問3（17）学校の子どもは、地域のボランティア活動に参加していますか。	3.2	0.7	3.9	2.5
問3（18）学校の子どもは、学校や地域でふれあう大人の学びや考え方に刺激を受けていますか。	3.0	0.7	3.7	2.3
問3（19）学校の子どもは、将来、今住んでいる地域に住みたいと思っていますか。	3.0	0.6	3.6	2.4
問3（20）学校支援やボランティアは、学校の教育の質の向上に効果がありますか。	3.5	0.6	4.1	2.9
問3（21）教職員同士での連携・協働の意識は高いですか。	3.5	0.6	4.0	2.9
問3（22）地域や関係機関等と連携・協働することが、教職員の資質・能力の向上につながっていますか	3.4	0.6	4.0	2.8
問3（24）教職員は、保護者対応に負担を感じていると思いますか。	2.1	0.8	2.9	1.4
問3（25）教職員は、児童生徒の問題行動への対応に負担を感じていると思いますか。	2.2	0.8	3.0	1.4
問3（26）教職員は、コミュニティ・スクールの取組による多忙感があると思いますか。	2.2	0.8	3.0	1.4
問3（27）教職員は、地域に貢献しようとする意識が高いですか。	3.2	0.7	3.9	2.5
問3（28）教職員は、「地域と共に子どもを育てていく」という意識は高いですか。	3.3	0.7	4.0	2.6
問3（29）保護者や地域住民の学校に対する見方は、好意的・協力的ですか。	3.4	0.6	4.0	2.8
問3（30）保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解していると思いますか。	2.7	0.7	3.4	2.0
問3（31）学校への批判や苦情が、減少傾向にありますか。	3.1	0.7	3.7	2.4
問3（32）コミュニティ・スクールは、地域を良くすることにつながると思いますか。	3.6	0.5	4.1	3.1
問3（33）学校の取組に対して、保護者や地域の人の協力が得られていますか。	3.3	0.6	3.9	2.8
問3（34）保護者や地域の人は、学校のために役に立ちたいと思っていますか。	3.3	0.6	3.9	2.7
問3（35）あなたは、学校の行事に参加するようになりましたか。	3.6	0.6	4.2	3.0
問3（36）学校運営協議会に参加することは、自分自身のやりがいや学びにつながっていますか。	3.5	0.6	4.1	2.9
問3（37）あなたの住む地域は、子育てがしやすい地域だと思いますか。	3.5	0.6	4.1	2.9
問3（38）あなたは、お住まいの地域が好きですか。	3.8	0.5	4.2	3.3

次に、残りの24項目に対して、因子分析（最尤法、Promax回転）を行った。因子数は、固有値の落差、因子の解釈可能性を考慮して3因子が妥当であると判断した。その結果、問3（10）、問3（19）、問3（31）の3項目が、因子負荷量の絶対値が.4未満の項目であるため削除した。同様にして因子分析を行った結果、最終的に21項目3因子構造を得た。各因子の質問項目を概観し、第I因子を「子どもの学びと心の成長」、第II因子を「学校・家庭・地域の協働」、第III因子を「教職員の負担感の軽減」と名付けた。なお、下位尺度の信頼性を検討するために、因子ごとにCronbachの α 係数を算出したところ、 $\alpha = .80 \sim .92$ であることから下位尺度の内的整合性は高いと判断した。因子分析の結果及び各因子の記述統計量と α 係数を表7に示す。

表7 因子分析結果（平均値（M）, 標準偏差（SD）, α 係数）（CS委員）

質問項目	I	II	III
因子 I（子どもの学びと心の成長）（M=3.24, SD=.43, α=.92）			
問3（6）学校の子どもは、意欲的に学習していますか。	0.836	-0.203	-0.059
問3（7）学校の子どもは、授業のとき自分の考えや意見を述べていますか。	0.808	-0.089	-0.097
問3（2）学校の子どもは、頑張り抜く力がありますか。	0.772	-0.059	0.103
問3（3）学校の子どもは、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか。	0.763	0.024	-0.051
問3（4）学校の子どもは、自分の良いところを知っていますか。	0.742	-0.043	-0.034
問3（8）学校の子どもは、授業のとき友達のことを大切にしていますか。	0.718	0.021	-0.04
問3（5）学校の子どもは、学校で学んだことを生活の中で生かしていますか。	0.703	-0.006	0.088
問3（11）学校の子どもは、人の役に立ちたいと考えていると思いますか。	0.645	0.097	0.056
問3（9）学校の子どもは、思いやりの心が育っていますか。	0.607	0.042	0.021
問3（1）学校の子どもは、将来の夢や目標を持っていますか。	0.573	0.067	0.042
問3（15）学校の子どもは、地域の様子や出来事に関心がありますか。	0.565	0.106	0.044
問3（18）学校の子どもは、学校や地域でふれあう大人の学びや考え方に刺激を受けていますか。	0.544	0.184	0
問3（17）学校の子どもは、地域のボランティア活動に参加していますか。	0.41	0.286	-0.049
因子 II（学校・家庭・地域の協働）（M=3.18, SD=.47, α=.80）			
問3（29）保護者や地域住民の学校に対する見方は、好意的・協力的ですか。	-0.164	0.769	-0.043
問3（33）学校の取組に対して、保護者や地域の人の協力が得られていますか。	0.02	0.701	0.05
問3（34）保護者や地域の人は、学校のために役に立ちたいと思っていますか。	-0.011	0.683	-0.02
問3（30）保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解していると思いますか。	0.199	0.485	0.053
問3（27）教職員は、地域に貢献しようとする意識が高いですか。	0.307	0.427	-0.037
因子 I（教職員の負担感の軽減）（M=2.15, SD=.66, α=.81）			
問3（25）教職員は、児童生徒の問題行動への対応に負担を感じていると思いますか。	-0.057	-0.006	0.955
問3（24）教職員は、保護者対応に負担を感じていると思いますか。	0.057	-0.046	0.84
問3（26）教職員は、コミュニティ・スクールの取組による多忙感があると思いますか。	-0.026	0.032	0.566
因子間相関			
	I	II	III
		0.637	
			0.292
			0.226

続いて、コミュニティ・スクールの取組と成果の関係を分析するために、各因子を従属変数、14の取組指標を独立変数として重回帰分析（ステップワイズ法）を行った。

その結果、第I因子「子どもの学びと心の成長」には、「⑤マネジメント」「⑦中学校区における「育てたい子ども像」等の共有」「④協働」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「②熟議」「⑫放課後や土曜日等の教育活動の充実」の取組指標が有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図7）。

第II因子「学校・家庭・地域の協働」は、「③企画」「⑬意識調査・啓発」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「④協働」の取組指標が有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図8）。

第III因子「教職員の負担感の軽減」については、「④協働」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」の取組指標が有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図9）。

以上のことから、CS委員はコミュニティ・スクールの取組により、「子どもの学びと心の成長」「学校・家庭・地域の連携」「教職員の負担感の軽減」に成果があると考えている。そしてこれらの成果は、「②熟議」「③企画」「④協働」「⑤マネジメント」「⑦中学校区における「育てたい子ども像」等の共有」

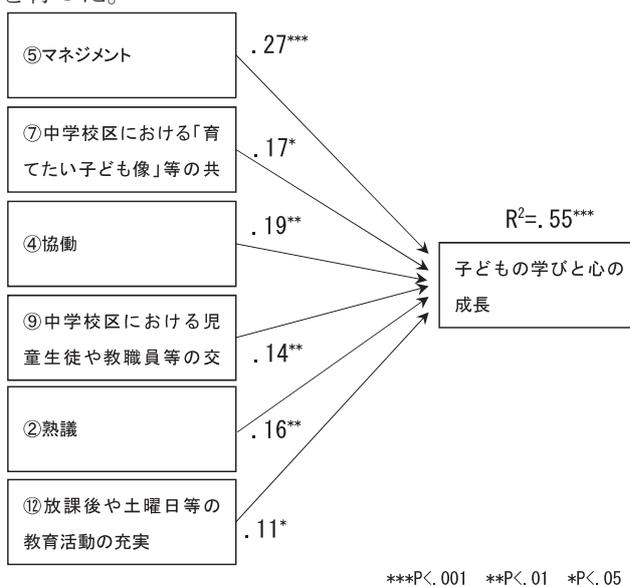


図7 CS委員因子Iにおける成果と取組指標

「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「⑫放課後や土曜日等の教育活動の充実」「⑬意識調査・啓発」によって支えられていると考えていることが分かる。特に、「④協働」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」はすべての因子に共通しており、地域の子どもの成長を見守ることを重要と感じていることが推察される。

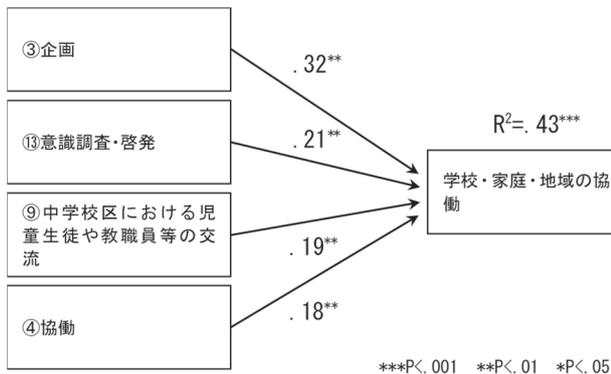


図8 CS委員因子Ⅱにおける成果と取組指標

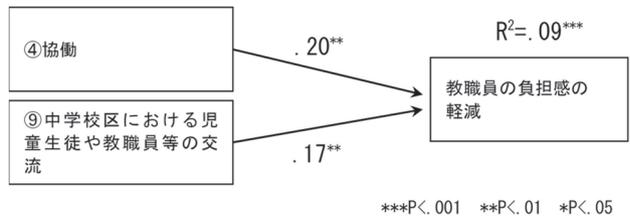


図9 CS委員因子Ⅲにおける成果と取組指標

3-4 保護者が意識する成果と関係する取組

まず、天井効果（平均値+標準偏差 ≥ 4.0 ）とフロア効果（平均値-標準偏差 ≤ 1.0 ）を確認するために各質問項目の平均と標準偏差を算出した（表8）。その結果、問3（9）、問3（10）、問3（12）、問3（14）、問3（27）において天井効果が見られたため、この5項目を以下の分析から除外した。

表8 保護者対象の質問項目の平均値（M）及び標準偏差（SD）

質問項目	M	SD	M+SD	M-SD
問3（1）あなたの子どもは、将来の夢や目標をもっていますか。	2.9	0.9	3.8	2.0
問3（2）あなたの子どもは、頑張らないと行けない場面で、最後まであきらめずに頑張っていますか。	3.1	0.8	3.9	2.4
問3（3）あなたの子どもは、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか。	2.8	0.8	3.5	2.0
問3（4）あなたの子どもは、自分の良いところを知っていますか。	3.1	0.7	3.8	2.3
問3（5）あなたの子どもは、学校で学んでことを生活の中で生かしていますか。	2.9	0.7	3.6	2.2
問3（6）あなたの子どもは、意欲的に学習していますか。	2.7	0.9	3.6	1.9
問3（7）あなたの子どもは、授業のとき自分の考えや意見を発表していますか。	2.7	0.9	3.6	1.8
問3（8）あなたの子どもは、授業のとき友達の話や意見を聞いていますか。	3.2	0.7	3.9	2.6
問3（9）あなたの子どもは、思いやりの心が育っていますか。	3.4	0.6	4.0	2.8
問3（10）あなたの子どもは、いじめを許さない心がありますか。	3.4	0.6	4.0	2.8
問3（11）あなたの子どもは、人の役に立ちたいと考えていますか。	3.2	0.7	3.9	2.5
問3（12）あなたの子どもは、学習のきまり（チャイム着席、話を黙って聞く等）を守っていますか。	3.5	0.6	4.1	2.8
問3（13）あなたの子どもは、礼儀正しいですか。（言葉遣いに気をつける、お礼を言うなど）	3.2	0.7	3.9	2.5
問3（14）あなたの子どもは、きまりやマナーを守っていますか。	3.4	0.6	4.0	2.7
問3（15）あなたの子どもは、地域の様子や出来事に興味がありますか。	2.6	0.8	3.4	1.8
問3（16）あなたの子どもは、今住んでいる地域の行事に参加していますか。	2.6	0.9	3.5	1.7
問3（17）あなたの子どもは、地域のボランティア活動に参加していますか。	2.4	1.0	3.3	1.4
問3（18）あなたの子どもは、地域の人にあいさつをしていますか。	3.2	0.7	3.9	2.4
問3（19）あなたの子どもは、大人になっても今住んでいる地域に住みたいと思っていますか。	2.6	0.9	3.5	1.7
問3（20）地域の人が授業に協力すると、学校の教育活動が充実すると思いますか。	3.0	0.8	3.7	2.2
問3（21）あなたの子どもが通う学校は、地域に協力しようとしていますか。	3.2	0.7	3.9	2.5
問3（22）あなたの子どもが通う学校は、「地域と共に子どもを育てていく」という意識が高いと思いますか。	3.1	0.8	3.8	2.3
問3（23）あなたの子どもが通う学校は、親しみやすいですか。	3.1	0.7	3.8	2.3
問3（24）コミュニティ・スクールは、地域を良くすることにつながると 생각합니다か。	3.1	0.7	3.8	2.4
問3（25）あなたは、子どもが通う学校の取組に協力していますか。	2.9	0.7	3.6	2.2
問3（26）あなたは、子どもが通う学校のために役に立ちたいと思いますか。	3.1	0.7	3.8	2.4
問3（27）あなたは、子どもが通う学校の行事（参観日や運動会、バザーなど）に参加していますか。	3.4	0.7	4.1	2.7
問3（28）学校の取組に協力することは、自分自身のやりがいや学びにつながっていますか。	2.8	0.8	3.6	2.1
問3（29）あなたの住む地域は、子育てがしやすい地域だと思いますか。	3.1	0.7	3.8	2.4
問3（30）あなたは、お住まいの地域が好きですか。	3.2	0.8	4.0	2.4

次に、残りの25項目に対して、因子分析（最尤法、Promax回転）を行った。因子数は、固有値の落差、因子の解釈可能性を考慮して3因子が妥当であると判断した。その結果、問3（18）、問3（19）の2項目が、因子負荷量の絶対値が.4未満の項目であるため削除した。同様にして因子分析を行った結果、最終的に23項目3因子構造を得た。各因子の質問項目を概観し、第Ⅰ因子を「学校と家庭の連携」、第Ⅱ因子を「子どもの学びと心の成長」、第Ⅲ因子を「子どもと地域の関わり」と名付けた。なお、下位尺度の信頼性を検討するために、因子ごとにCronbachの α 係数を算出したところ、 $\alpha = .79 \sim .89$ であることから下位尺度の内的整合性は高いと判断した。因子分析の結果及び各因子の記述統計量と α 係数を表9に示す。

表9 因子分析結果（平均値（M）、標準偏差（SD）、 α 係数）（保護者）

質問項目	I	II	III
因子Ⅰ（学校と家庭の連携）（M=3.05 SD=.52 α=.89）			
問3（22）あなたの子どもが通う学校は、「地域と共に子どもを育てていく」という意識が高いと思いますか。	0.805	-0.049	-0.041
問3（21）あなたの子どもが通う学校は、地域に協力しようとしていますか。	0.78	-0.04	-0.039
問3（23）あなたの子どもが通う学校は、親しみやすいですか。	0.776	0.027	-0.065
問3（24）コミュニティ・スクールは、地域を良くすることにつながると思いますか。	0.765	-0.007	-0.055
問3（29）あなたの住む地域は、子育てがしやすい地域だと思いますか。	0.642	-0.001	-0.038
問3（20）地域の人が授業に協力すると、学校の教育活動が充実すると思いますか。	0.607	-0.049	0.049
問3（28）学校の取組に協力することは、自分自身のやりがいや学びにつながっていますか。	0.603	0.061	0.083
問3（26）あなたは、子どもが通う学校のために役に立ちたいと思いますか。	0.583	0.04	0.108
問3（30）あなたは、お住まいの地域が好きですか。	0.569	0.016	-0.061
問3（25）あなたは、子どもが通う学校の取組に協力していますか。	0.447	0.046	0.209
因子Ⅱ（子どもの学びと心の成長）（M=2.98 SD=.51 α=.86）			
問3（2）あなたの子どもは、頑張らないと行けない場面で、最後まであきらめずに頑張っていますか。	-0.01	0.804	-0.137
問3（6）あなたの子どもは、意欲的に学習していますか。	-0.059	0.747	-0.048
問3（3）あなたの子どもは、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか。	-0.063	0.738	-0.003
問3（8）あなたの子どもは、授業のとき友達の話や意見を聞いていますか。	0.049	0.654	-0.062
問3（5）あなたの子どもは、学校で学んでことを生活の中で生かしていますか。	0.14	0.579	0.046
問3（7）あなたの子どもは、授業のとき自分の考えや意見を発表していますか。	-0.08	0.578	0.08
問3（11）あなたの子どもは、人の役に立ちたいと考えていますか。	0.025	0.541	0.127
問3（4）あなたの子どもは、自分の良いところを知っていますか。	0.061	0.536	-0.002
問3（1）あなたの子どもは、将来の夢や目標をもっていますか。	-0.004	0.535	-0.017
問3（13）あなたの子どもは、礼儀正しいですか。（言葉遣いに気をつける、お礼を言うなど）	0.016	0.524	0.03
因子Ⅲ（子どもと地域の関わり）（M=2.50 SD=.75 α=.79）			
問3（16）あなたの子どもは、今住んでいる地域の行事に参加していますか。	-0.009	-0.097	0.884
問3（17）あなたの子どもは、地域のボランティア活動に参加していますか。	-0.037	-0.012	0.749
問3（15）あなたの子どもは、地域の様子や出来事に関心がありますか。	0.035	0.251	0.542
因子間相関			
	I		
	II	0.504	
	III	0.503	0.531

続いて、コミュニティ・スクールの取組と成果の関係を分析するために、各因子を従属変数、14の取組指標を独立変数として重回帰分析（ステップワイズ法）を行った。その結果、第Ⅰ因子「学校と家庭の連携」には、「③企画」「⑭学校支援マニュアルの作成」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「⑪家庭教育支援の充実」の取組指標が有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図10）。

第Ⅱ因子「子どもの学びと心の成長」では、「③企画」「⑭学校支援マニュアルの作成」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「⑪家庭教育支援の充実」「⑬意識調査・啓発」の取組指標が有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図11）。

第Ⅲ因子「子どもと地域の関わり」では、「③企画」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「⑫放課後や土曜日等の教育活動の充実」「⑪家庭教育支援の充実」の取組指標が有意な正の影響を及ぼしていることが示された（図12）。

以上のことから、保護者はコミュニティ・スクールの取組により、「学校と家庭の連携」「子どもと学びと心の成長」「子どもと地域の関わり」に成果があると考えている。そしてこれらの成果は、「③企画」

「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「⑩家庭教育支援の充実」「⑫放課後や土曜日等の教育活動の充実」「⑬意識調査・啓発」「⑭学校支援マニュアルの作成」によって支えられていると考えていることが分かる。とくに、「③企画」「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」「⑩家庭教育支援の充実」はすべての成果に共通していることから、保護者は学校との連携に重点をおいていることが推察される。

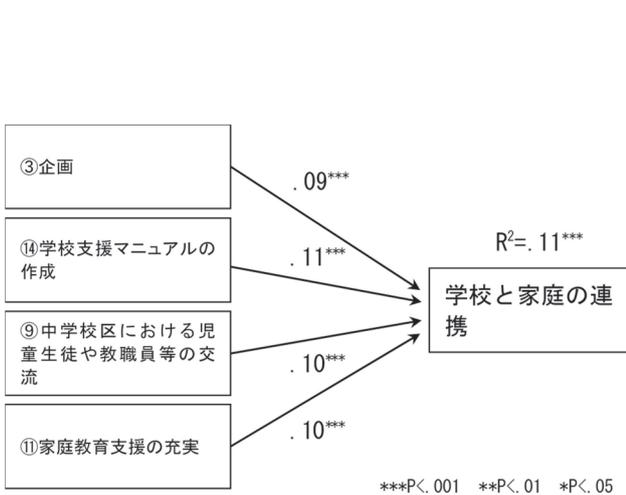


図10 保護者因子Ⅰにおける成果と取組指標

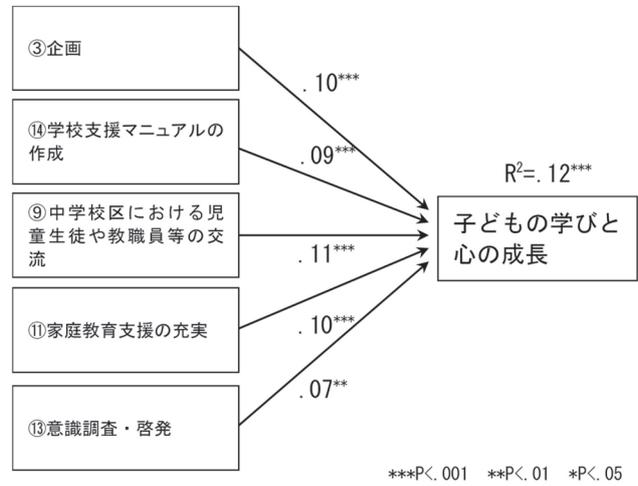


図11 保護者因子Ⅱにおける成果と取組指標

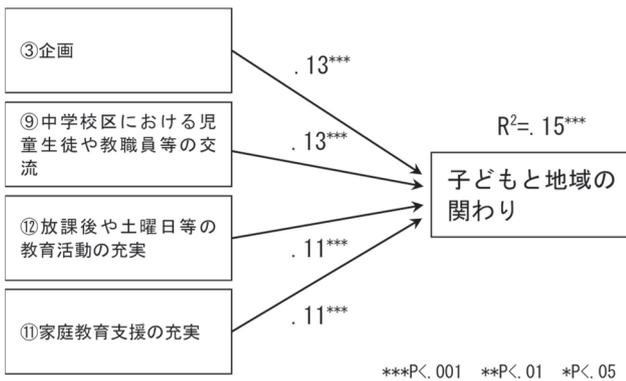


図12 保護者因子Ⅲにおける成果と取組指標

4. 考察

山口県の公立小・中学校の管理職、教職員、CS委員、保護者に実施した質問紙調査を分析した結果、コミュニティ・スクールの取組は、どの立場からも「子どもの成長」と「連携」に影響を与えていることが示された。

そもそもコミュニティ・スクールの取組は、学校の教育活動を中心として行われているため、「子どもの成長」が成果として認識されることは当然といえ、当然であるといえる。しかし「子どもの成長」に影響があると考えられる取組指標には、管理職、教職員、CS委員、保護者の立場から共通しているものと異なるものがある。どの立場にも共通する取組指標は「⑨中学校区における児童生徒や教職員等の交流」である。コミュニティ・スクールの成果に与える影響として、小学校と中学校の連携が関係していることは非常に示唆的である。子どもの育ちは地域を単位として一連のものとしてとらえられていることやコミュニティ・スクールの取組が地域とともに実施されることが多いため小学校と中学校とが連携して行うほうが効率的であり実効性が高いことが影響しているものと思われる。違いの見られる取組指標をまとめると、管理職は「小学校と中学校の連携する取組」、教職員は「学校の取組」、CS委員は「子どもを理解する取組」、保護者は「学校と家庭の連携する取組」に重点を置いていると考えられる。それぞれの立場から子どもに関わるため、こうした違いが生じるものと思われるが、「連携する取組」が重要であることは共通に意識されている

といえる。一方、管理職の「小学校と中学校の連携する取組」意識は、さまざまな視点からも非常に有効であると考え、子どもの教育を「学校教育」に閉じてしまう可能性も生じる。平成29年改訂の学習指導要領では、地域・家庭と連携・協働した「社会に開かれた教育課程」の重要性が明記⁴⁾されるなど、ますます「地域に学校を開く」ことが重要となってきたため、管理職にはこうしたことを踏まえたマネジメント力が一層求められる。

次に、コミュニティ・スクールの取組の成果である「連携」に関して、どの立場にも共通する取組指標は、「③企画」である。この取組指標は、学校運営協議会が中心となって学校と連携・協働する取組や研修、生涯学習等の企画を意味している。つまり、学校運営協議会の実施する活動が「連携」を推進することに影響を与えると考えられていることから、学校運営協議会は、学校・家庭・地域が「連携」するために重要な役割を担っていると認識されているといえる。異なる点としては、「連携」における力点の置き方である。子どもへの関わり方が違うため力点が違うことは当然であり、むしろそれぞれ立場でできる連携を行うことこそ参画意識を高める点で重要であると考えられる。

このように「連携」が進んでいくと、家庭と地域が結びつき、孤立する家庭が減少していく。つまり地域内に「大人と子どものつながり」に加え「大人同士のつながり」が生じ、こうした関係は子どもが学校を卒業しても続いていくと思われる。つまりコミュニティ・スクールの取組によって構築された「連携」は、「人のつながり」を生むと考えられる。さらに、信頼できる大人に囲まれて育った子どもたちが、地域の次代の担い手になることも期待できる。このようにコミュニティ・スクールの取組は、必然的に「地域づくり」につながっていくと考えられる。

おわりに

コミュニティ・スクールは、子どもの成長を願い、ステークホルダーである保護者や地域住民とともに学校教育に取り組むものである。こうした取組の積み重ねにより、子どもの成長が図られるとともに地域の人のつながりを生むことにつながる。したがって、コミュニティ・スクールは持続的に取り組むことこそが重要なのである。コミュニティ・スクールの取組を推進するためには、学校運営協議会が重要な役割を果たす。そして学校運営協議会を機能させるためには、学校、とくに管理職の果たす役割は大きい。コミュニティ・スクールを導入した学校の管理職は、新しい学校の姿としての「コミュニティ・スクール」をどのように描いているかを問われるとともに、「学校を運営する」ことから「コミュニティ・スクールを運営する」ことへの理念の転換が求められると考える。

参考・引用文献

- 1) 山口県教育委員会：「平成29年度やまぐち型地域連携教育実践事例集」，PP11-12，2018.
- 2) 美作健悟・静屋 智・池田廣司・長友義彦：「コミュニティ・スクールの取組による成果検証の在り方に関する一考察」，山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第46号，PP93-102，2018.
- 3) 長友義彦・静屋 智・池田廣司・前原隆志：「コミュニティ・スクールの現状と課題—スクール・ガバナンスの視点から—」，山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第44号，PP93-102，2017
- 4) 文部科学省：「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」，東洋館出版社，P2，2018.